

## 国際学会 IEICE 実現への道しるべ

調査理事 佐々木 繁



科学・技術・政治・経済いずれも世界規模で激動が多かった昨今でしたが、日本の新たな変革と大いなる飛躍が期待される 2013 年へバトンが渡されました。

科学分野では、物質に質量を与える「ヒッグス粒子」の発見や、生命体の神秘を解明し実用化にめどをつけたノーベル賞受賞者の山中伸弥教授による「iPS 細胞」は、科学者だけではなく世界中の一般市民へまで、大きな夢と希望を与えてくれました。ICT 分野では、10 ペタスケールコンピューティングの実現によって、「つくりだすものづくり」つまり「高度かつ複雑なシミュレーション」による科学、社会、産業界へのインパクトある貢献が顕著になりました。更には、ネットワークとクラウドコンピューティングに支えられたスマートフォンによるモビリティと利便性の進化が加速されました。加えて、業種を超えた様々なビッグデータの利活用で新たな価値を創生する知識情報処理技術の進化が始まろうとしています。

このように、ICT 技術を基盤とする電子情報通信学会に対する社会的期待と責任は非常に大きくなっていきます。産官学連携の下、技術・科学の継続的追及はもちろん、世界観を持った若手人材の育成、各国の研究者とのハーモナイゼーション、そして、グローバル社会におけるリーダーシップが必須になっています。なぜならば、これまで日本は R & D への積極的投資と教育活動を先導してきましたが、昨今、特許生産数、国際標準化活動、著名な国際会議での採択率などから俯瞰してみると、アジア近隣諸国の方が一段と積極性を増してきているからです。

こうした中、「本会は、電子情報通信および関連する分野の国際学会として、学術の発展、産業の興隆並びに人材の育成を促進することにより、健全なコミュニケーション社会の形成と豊かな地球環境の維持向上に貢献します」という理念を策定し、各ソサイエティ、理事会、国際委員会を中心に議論しながら少しずつ具体的施策を重ねてきていますが、経営面を含め、十分とは言えない状況です。

一方では、日本への留学生が帰国後も活躍していることもあり、海外在住の会員数は、一般会員の 10% を占めるようになりました。特にアジアや欧州には、日本の支部のような活動を目指した 11 の海外セクションが設立され、専門分野の議論や教育活動が実行されています。国際委員会では、海外会員へのサービスのあり方や、ポジティブな海外セクションへは体制構築・資金援助・国際会議支援を行うなど、国際学会 IEICE へ発展するための具体策を議論中です。学会誌では国際委員会国際企画タスクフォースによる Monthly community “IEICE Global Plaza” in English のページも海外会員向けサービスの一環として定着しています。会員の皆様も海外出張の折、海外セクション代表者の方々と一緒に、本会の国際学会 IEICE としてのあり方について、情報交換や議論を継続して頂ければ幸いです (<http://www.ieice.org/jpn/area/index.html> 参照)。

Web ページ企画・運営委員会では、専門分野外の方々を含む国内外の老若男女へ向けて、電子情報通信学会のアピールとサービスを充実させるべく、本会ホームページのリニューアル活動を進めています。第一段階はシンプルアクセスが可能な階層構造かつ魅力的なコンテンツを目指し、第二段階はコンテンツの英語化、第三段階は海外セクションによる母国語コンテンツも可能とし、真の国際学会 IEICE として、策定した理念を念頭に、進化・深化・新化しながら新価値を創生していきます。プロフェッショナルの集合体である各ソサイエティの活動も、今以上に国際的なソサイエティとして位置付け、論文コンテンツが与える影響力などとも関係性を持ちながら自律・変革・発展していく必要があります。

最後に、参考までに、IEEE のホームページに The world's largest professional association for the advancement of technology とあることを、情報共有かつ「国際学会 IEICE 実現への道しるべ」とします。